

実践『ペルソナ』通信 (No.43)

「大学生が持ち歩いているお菓子の実態」に関する調査結果
～お菓子を持ち歩く女子大生は半分～

実践女子大学人間社会学部・実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大生と他大学生を対象に、「大学生が持ち歩いているお菓子の実態」についてのアンケート調査を実施しました。有効回答者数は、83 サンプルでした。

※実践「ペルソナ」通信 (No.43) は、Be 面の調査結果をもとに、大学生が持ち歩いているお菓子の選択基準などに注目し、調査項目を考え、さらに深く実態を考察するために行った調査です。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学 (担当：竹内光悦)」、「経営学 (担当：篠崎香織)」、「マーケティング (担当：斎藤明)」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、自分たちの消費活動、ライフスタイルをはじめ「実践女子大生が自分たち自身」を科学する研究会です。

総括

今回の調査を通して、半数以上の実践女子大学生がお菓子を持ち歩いていることがわかった。最も常備しているお菓子は、「ガム」、「タブレット」、「チョコレート」のような比較的コンパクトなタイプのお菓子が多く、お菓子のパッケージで重要視している点では、「サイズ」を最も重視していた。しかし、お菓子を購入する際に最も重要視する点では、「味」と回答する人が多く、美味しく、かつ持ち運びしやすいお菓子を持ち歩いていることがわかった。

調査結果ポイント

(1) 実践女子大生の半数以上がお菓子を持ち歩いている

お菓子を持ち歩いているかと尋ねたところ、実践女子大生は54%、他大学生は47%の人が「最も良くあてはまる」、「やや当てはまる」と回答した。また、「あまり当てはまらない」と回答した人は、実践女子大生32%、他大学生31%となり、たまに持ち歩いている人が多いこともわかった。中でも、実践女子大生は他大学の学生と比較してお菓子を持ち歩いている学生が多い傾向にあった。

(2) ガムやタブレットを常備している大学生が多い

ガム、タブレット、飴、チョコレート、グミ、クッキー・ビスケット、スナック菓子の7つの選択肢の中でどのタイプのお菓子を1番常備しているかと尋ねたところ、実践女子大生は「ガム」と「タブレット」が共に25%、他大学生は「ガム」32%、「タブレット」30%であった。いずれにしても、手軽で持ち運びやすいお菓子が圧倒的に多かった。

(3) 持ち歩くお菓子は1つが多い

鞆にお菓子をいくつ持ち歩いているかと尋ねたところ、「1つ」と回答した人は実践女子大生 68%、他大学生 55%と半数以上であった。また、「なし」と回答した人は実践女子大学生 16%、他大学生 27%と持ち歩かない大学生が予想以上に多かった。したがって、大学生の1～3割はお菓子を持ち歩いていないが、お菓子を持ち歩く場合は1つのみを持ち歩く場合が多い。

(4) お菓子を購入するときは、味を最も重視する

お菓子を購入する際に最も重視する点では、「味」と回答した人が、実践女子大生 52%、他大学生 65%と圧倒的に多かった。2番目に、「値段」と回答する人が多く、実践女子大生 35%、他大学生 18%という結果となった。このことから、多少値段が高くて味を優先する学生が多いと考えられる。「パッケージデザイン」や「メーカー」と回答した人は少なく、メーカーへのこだわりが少ないと言える。

(5) お菓子を買うのはコンビニ

お菓子を購入する場所について尋ねたところ、「コンビニエンスストア」と回答した人が、実践女子大生 65%、他大学生 64%、と圧倒的に多い結果となった。その要因として、立ち寄りやすく気軽に入れることや、大学の近くにあることなどが挙げられる。通学で必ず駅を利用する人が多いのに対し、駅の売店でお菓子を買う人はほとんどいなかった。

(6) パッケージで重視するのは、デザインよりサイズ

お菓子のパッケージで重視する点はどこかという質問では、実践女子大生・他大学生ともに1位は「サイズ」、2位は「デザイン性」、3位は「機能性」という結果になった。大学カバンには教科書やノートを入れたりするため、かさばらないようにサイズを重視している人が多い。

(7) 小腹が空いた時のためのお菓子

お菓子を持ち歩く理由について尋ねたところ、実践女子大生、他大学生ともに「小腹が空くため」と回答した人が48%と一番多く、授業と授業の間に食べられるように持ち歩く学生が多いと考えられる。次に、「エチケット」のためと回答した人は2番目に多く、実践女子大生 35%、他大学生 33%となった。食後などの口のおいしさを気にし、ガムやタブレットを食べる学生が多いと考えられる。

(8) お菓子にける金額は500円前後

1か月にお菓子に使う金額を尋ねたところ、実践女子大生、他大学生ともに「500円以上1000円以下」が多く、次に「500円未満」が多かった。一か月にお菓子にける金額はどこの大学生も一緒であることと、あまりお菓子にお金を使わないことがわかった。

調査結果について

<調査概要>

調査対象	実践女子大学生、他大学生、専門学生、大学院生
調査方法	ウェブ調査
調査期間	2017年8月18日～2017年8月22日
有効回答数	83人
回答者の属性	大学生79人（実践女子大35.8%、他大学生64.1%）、 専門学生3人、大学院生1人

<本調査担当チーム>

実践女子大学人間社会学部「ペルソナ」研究会

3年 折茂美玖

3年 兼子千穂

3年 白石透香

調査結果データ

(1) 普段、お菓子を持ち歩くのかについての実態

全体では、普段、お菓子を持ち歩くかという質問に対し、「最もよくあてはまる」、「やや当てはまる」と回答した人は41人で約49%、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」と回答した人は42人で約50%となり、半分ずつの結果となった。属性ごとに見ると、他大生は、46%が「最もよくあてはまる」、「やや当てはまる」と回答しており、実践女子大生では、半数以上の55%の人がお菓子を持ち歩いていることがわかった。他大生に比べ、実践女子大生はお菓子を持ち歩いていた。

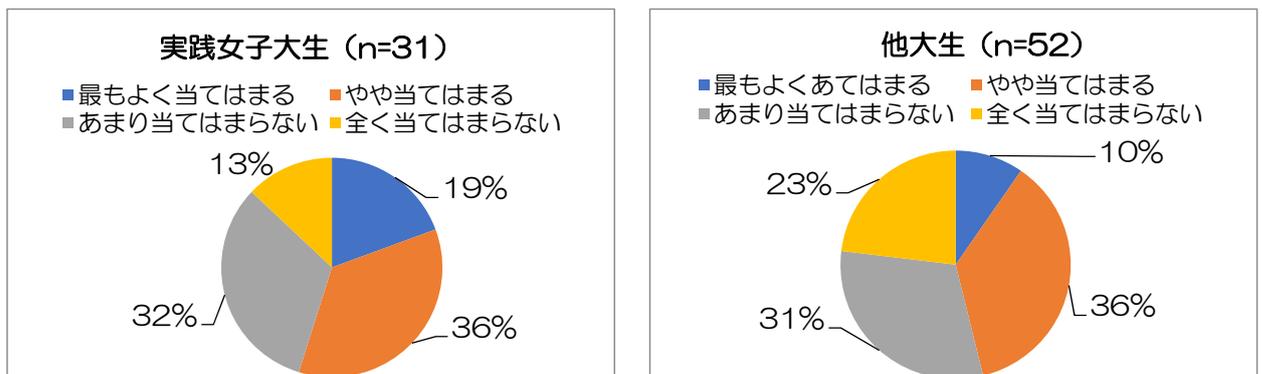


図1. お菓子を持ち歩くかについて

(2) 最も常備しているお菓子についての実態

全体では、「ガム」、「タブレット」と回答した人が合わせて43人おり、約半数の人がこのどちらかを持ち歩いていた。実践女子大生の回答でも50%の人がこのどちらかを選択していた。また、他大生の回答でも、半数以上の62%の人が上記のどちらかを選択しており、手軽に買えるこの2つのどちらか常備している大学生が多いことがわかった。

全体で、「ガム」を選んでいる22人のうち、お菓子を持ち歩いている理由を「エチケットのため」と回答した人は19人であり、これは最も常備しているお菓子が「ガム」であると回答した人の86%を占めていた。したがって、大学生はエチケット目的でガムやタブレットを持ち歩く傾向が高いと言える。

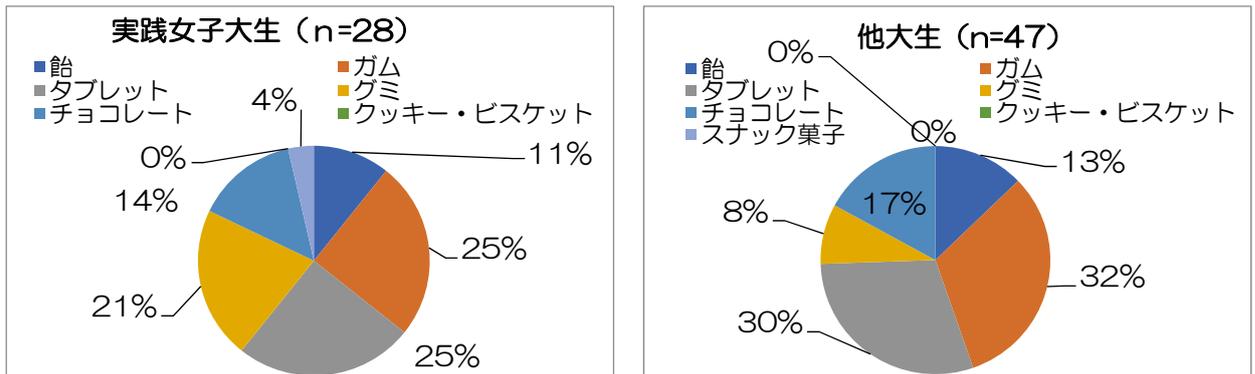


図2. 最も常備しているお菓子について

(3) 持ち歩いているお菓子の数についての実態

全体では、49人が持ち歩いているお菓子の個数を「1つ」と回答していた。

属性別に見ると、実践女子大生は、68%の人が「1つ」と回答していた。また、「2つ」、「持ち歩いていない」と回答した人はそれぞれ16%ずつとなり、実践女子大生はお菓子を2つ持ち歩いている人もいれば、それと同じ数の人がお菓子を持ち歩いていないという実態が明らかになった。他大生でも最も多い回答は「1つ」となり、次いで「なし」と回答した人が27%を占める結果となった。実践女子大生と比較すると、「なし」と回答している人の割合が多く、お菓子を1つ持ち歩いているか、1つも持ち歩いていないというどちらかの傾向に当てはまる場合が多いことがわかった。

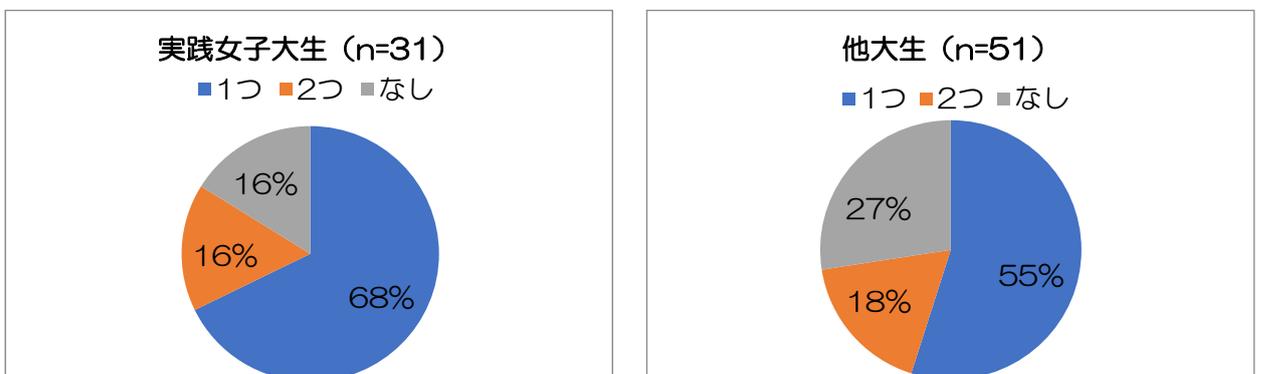


図3. 持ち歩いているお菓子の数について

(4) お菓子を購入する際に最も重視する点についての実態

Be面の調査でチャック付きのパッケージのお菓子や、鞆に入れやすい小さめのパッケージのお菓子を持ち歩いている人が多かったことから、A面の調査前は、「持ち運びやすさ」を重視する人が多いのではないかと考えていた。しかし、実際に調査を行ってみると、実践女子大生、他大生ともに「味」を最も重視しているという結果となった。

実践女子大生の回答では、「味」と回答した人は52%を占めており、次いで多かったのは「値段」で、36%であった。多くなると予想していた「持ち運びやすさ」は、わずか3%であった。一方、他大生では、実践女子大生と同様に「味」を最も重視する傾向にあったが、「値段」を重視する人は「持ち運びやすさ」を重視する人とそれ程大きな差はなく、それぞれ18%、17%という結果であった。また、実践女子大生ではパッケージデザインやメーカーを重視する人がわずかにいたが、他大生ではいずれも0%であった。

以上から、大学生はお菓子を購入する際には、「味」を最も重視する傾向にあるとわかった。実践女子大生は2番目に「値段」を重視する傾向にあったが、大学生全体として、パッケージデザインやメーカーなどは、あまり重視していない傾向にあることがわかった。

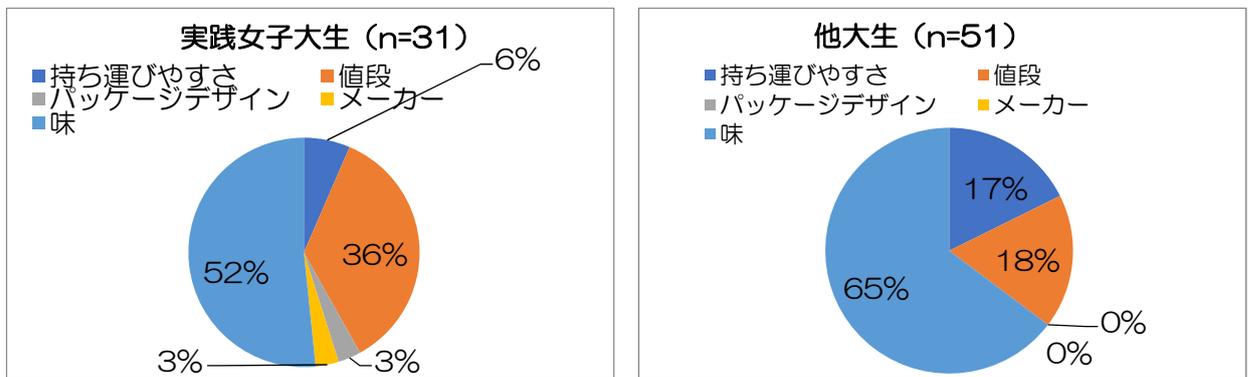


図 4. お菓子を購入する際に最も重視する点について

(5) お菓子を購入する場所についての実態

全部で81人の回答を得たが、そのうちの32人が「コンビニエンスストア」で購入すると答えた。属性別に見ると、実践女子大生では31人中、20人が「コンビニエンスストア」を選択した。他大生でも50人中32人が上記を選択しており、最も多い結果となった。コンビニエンスストアは他の選択肢であるスーパーやドラッグストアと比べると店舗数も圧倒的に多く、季節や店舗限定商品の販売など、お菓子の品ぞろえの面でも充実している。また、多くの大学では学内やその近隣にコンビニエンスストアがあり、手軽に寄れることを考えると、学生にとってコンビニエンスストアは身近で、お菓子を購入しやすい場所であると考えられる。

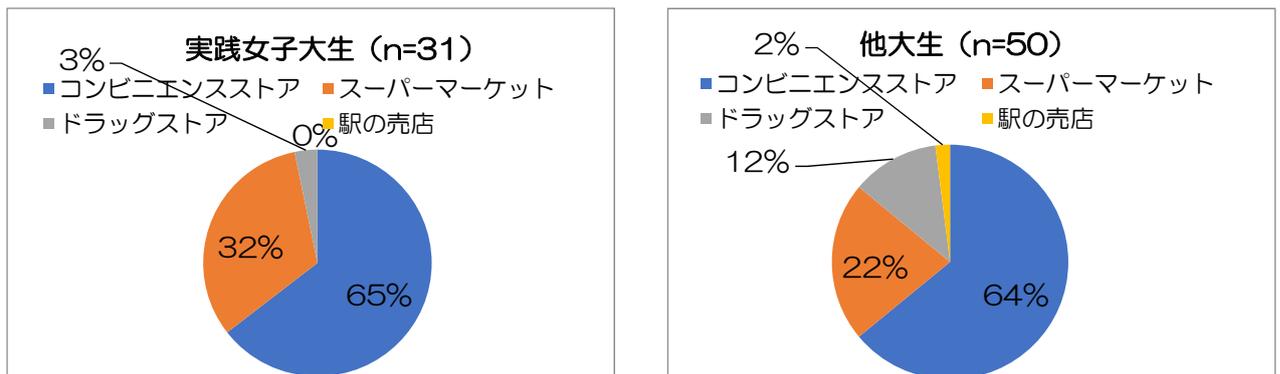


図5. お菓子を購入する場所について

(6) お菓子のパッケージで重視している点についての実態

お菓子を持ち歩く際に、持ち運びしやすさに大きく関わってくるため、パッケージが重要なのではないかと考えた。同様の理由から、パッケージの中でもサイズを重視する人が多いのではないかと予想したが、予想通り、サイズを重要視する人が最も多く、83人中45人が「サイズ」と回答した。他大生の回答を見ると、「サイズ」の次に「デザイン性」が多く、30人であった。それに対して実践女子大生は31人中「デザイン性」と答えたのは8人という結果になり、他大生と比較してデザインを重視する傾向が弱いことがわかった。

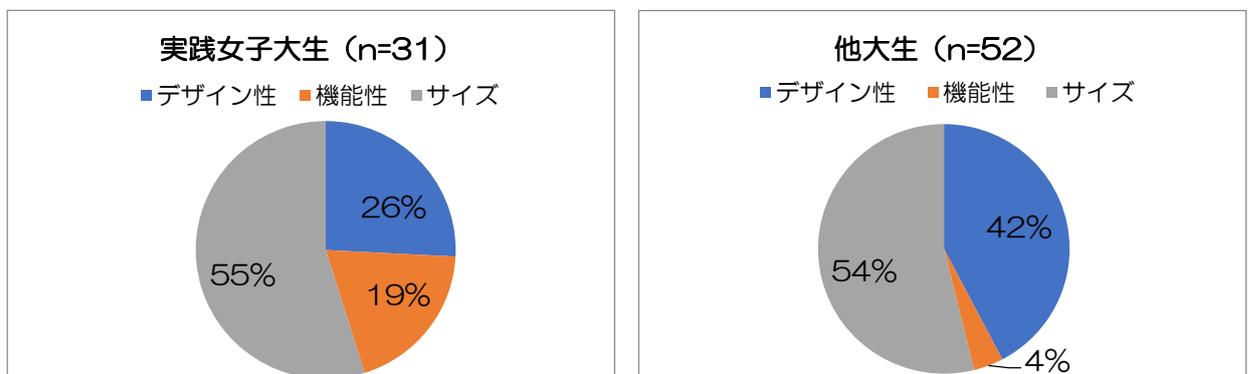


図6. お菓子のパッケージで重要視している点について

(7) お菓子を持ち歩く理由についての実態

実践女子大生、他大生で1番多かった回答は、「小腹が空いたとき用のため」というものであった。大学の授業が1コマ90分ということもあり、小腹が空く学生が多いのかもしれない。そのようなときのために、持ち歩く学生が多いことがわかった。また、「エチケットのため」に持ち歩いている学生も多かった。「エチケットのため」と回答している学生のお多くは、タブレットまたはガムを持ち歩いていた。

また、空きコマがあることから、「友達と食べるため」と回答した学生もおり、友達とお菓子をシェアしていた。

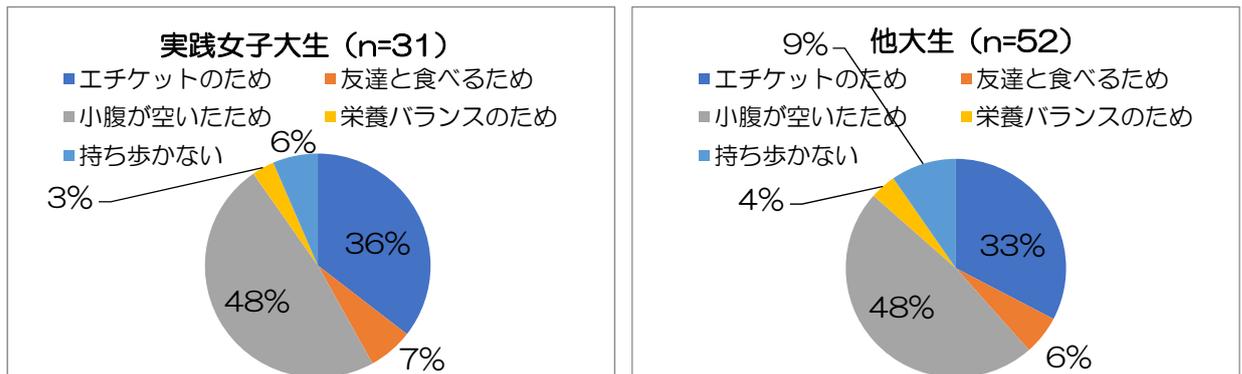


図7. お菓子を持ち歩く理由について

(8) 1か月にお菓子に使う金額についての実態

実践女子大生、他大生ともに1番多かった回答は、「500円以上1000円未満」というものであった。お菓1つの単価を120円とした場合、月に5個買えば500円を超えてしまう。前の質問の回答項目にあった、友達と食べるためのお菓子を購入した場合は、500円を超えることは多いと考えられる。そのことから、「500円以上1000円未満」という回答が1番多かったのだと思う。次に多かった回答は「500円未満」であったが、月にガムやタブレットを1、2個のみ買う場合はこれに含まれる。実践女子大生、他大生ともに、「2000円以上」買う人はいないかと思っただが、合わせて10人いた。

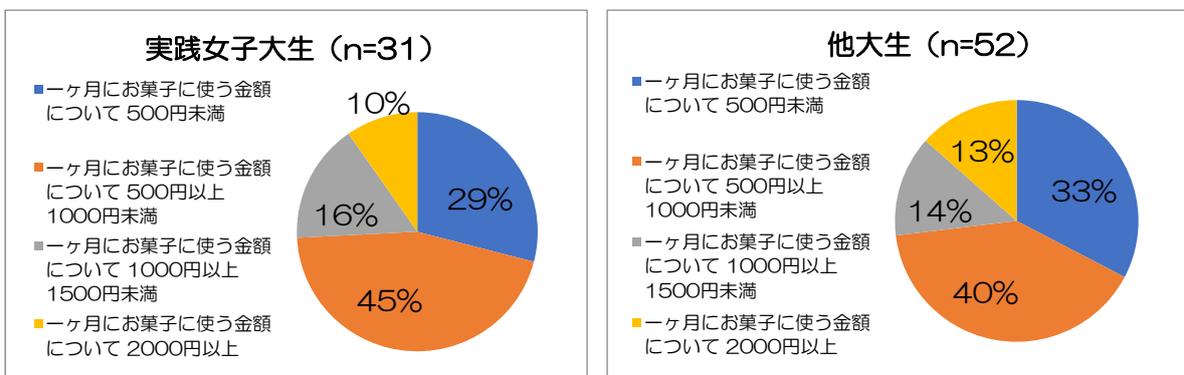


図8. 1ヶ月にお菓子に使う金額について

今回の調査を通して、多くの大学生がお菓子を持ち歩いていることが明らかとなった。また、その実態について詳細を見てみると、持ち運ぶお菓子の個数では、実践女子大学生、他大学生ともに1つが最も多いことがわかった。このことから、お菓子の需要のある大学生に、複数のお菓子の購入を促すことにより、今後、市場の伸びが期待できると言える。実際に、実践女子大生を対象に行った Be 面の調査では、予備も含めて複数のタブレットを所有している学生も見られた。

その他の現状として、大学生のお菓子を持ち歩く目的では、空腹対策のためが最も多く、次いで口臭対策などエチケットのために持ち歩く傾向が多く見られた。実際に持ち歩いている菓子の種類では、ガムやタブレットが最も多い結果となった。また、お菓子を購入する際に重視する点としては、味が最も多いことがわかった。実践女子大生の場合は、次いで2番目に値段という回答が多かったが、他大学生では持ち運びやすさも値段と同じくらい重視していることがわかった。お菓子を購入する場所として、スーパーなどに比べて割高な値段設定となるコンビニエンスストアでの購入が最も多かったことから、大学生全体としては、値段よりも味を重視する傾向にあることが言える。また Be 面の調査では、持ち運びやすい小さめのパッケージのものや、チャックがついているものが多い傾向にあったが、全大学生を対象に行った A 面の調査では、パッケージの中でもサイズ感を重視して選ぶ傾向があることがわかった。

以上から、大学生は空腹対策やエチケットのためにお菓子を持ち歩く傾向にあり、選ぶ基準としては味を最も重視していると考えられる。購入経路としては、店舗数が多く、限定商品などが充実しているコンビニエンスストアでお菓子を購入する傾向にあると言える。